

上海で考える

- 日本人は上海に負けないようにもっと勉強しよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

(2)このところ、海外に行く機会が多くあります。そこで今日は、先週行ってきた上海のお話を少しさせていただきます。

2. 上海で考える - 日本人は上海に負けないようにもっと勉強しよう -

(1)上海に行った目的は、上海の教育事情や最近の様子を勉強するためでした。学習塾・予備校・学校法人の経営をなさっている4名の方々と一緒に、11月7日から9日までの3日間の日程で行き、大変勉強になりました。

(2)上海の人口は2000万人を大幅に超え、3000万人に迫りつつあります。東京都の人口の2倍から3倍ですので、非常に大きな都市であることがわかります。私は、20年ぐらい前、浙江省の杭州市の印刷会社の董事をしていましたので、何回か上海に行かせていただいていたいました。その当時は、人民服を着たり自転車に乗ったりしている方がたくさんいました。しかし、何年かぶりで訪れた今回は、人民服を着た方を見ることはありませんでしたし、自転車に乗った方を見ることも少なかったです。

(3)では、かわりに何を見たかと言いますと、車です。車に乗っている方が非常に多かったです。こんなにたくさんの車が走っているのかと驚くほど上海には車が多く、そのほとんどは新しい車でした。でこぼこしているような車はほとんどなく、ピカピカの車がたくさん走っているのです。

(4)人々の服装はと言いますと、ここは銀座かと思われるような服装をしている方がほとんどでした。上海には富裕層と呼ばれる非常にお金持ちの方がたくさん住んでいると言われてはいますが、それほどお金持ちでない普通の方々も銀座や都会を歩くような服装をしていらっしゃいます。若い方はもちろん現代的な服装をしていますが、お年を召された方もそれなりの服装をしていて、豊かさが非常に感じられました。

- (5) 仕事はどうかと言うと、選ばなければ仕事はたくさんあるようです。ただ、大学生が新しい仕事に就くのはなかなか大変のようです。それは仕事を選んでいるからだとお聞きしました。
- (6) どこの大学生もものすごく勉強して、それこそ夜も寝ずに勉強して大学を卒業するわけですが、これは上海も同じです。放送をお聴きの皆さんも聞いたことがあると思いますが、パリに本部のある国際機関の OECD(経済協力開発機構)は 3 年に 1 度 PISA 調査(15 歳時の学習到達度調査)を実施しています。2000 年から始まり、2003 年、2006 年、2009 年に行われましたが、2009 年の調査ではなんと上海がすべての分野で 1 位になりました。読解力、数学的な能力、科学的な能力の 3 つとも、上海がトップだったのです。
- (7) なぜ上海がトップを取ったのか私はずっと不思議に思っていたのですが、今回上海を訪れているいろいろな方にお話を聞き、そのわけがよくわかりました。とにかく上海の方はよく勉強します。例えば、英語は小学校 1 年生から週に 4 回も授業があるそうです。中学校に進むと英語の授業はさらに増え、週に 6 回、多いところでは週に 8 回もあります。算数も、小学校から 1 日 1 回は授業があり、中学校では 1 週間に 6 時間から 7 時間の授業があるそうです。中国語の授業もたくさんあり、本当によく勉強しています。また、今後は理科系の人材を多く育てなければならないということで、理科も非常によく勉強しているそうです。
- (8) 一体なぜ上海の子どもたちはそんなに勉強するのかというと、「上海のお父さんやお母さん方は、子どもたちを大学はもちろん、大学院の修士課程・博士課程にまで行かせたいと考えているため、小学校の低学年のうちから『あなたは大学に行きなさい』と勧め、中学年・高学年になると『あなたは大学院に行きなさい』、中学生になると『博士課程まで行って、博士号を取りなさい』と教え込む。それが子どもたちの『勉強しなければ』という動機に繋がり、一所懸命な勉強というか激しい勉強に結び付くのだ」ということでした。
- (9) 上海の子どもたちはほとんどが一人っ子で、兄弟や姉妹がいる子はあまりいないそうです。その一人っ子の子どもに、両親と双方のおじいちゃん・おばあちゃん、つまり全部で 6 名の方が手を替え品を替えて「勉強は必要だよ」「大学まで行きなさい」「大学院の修士課程を出なさい」「できれば博士課程まで進めるように、一所懸命に勉強しなさい」と、小さい頃から懇々と諭します。すると、子どもはそういうものかと思い、勉強するようになるそうです。
- (10) では、日本の場合はどうでしょうか。先日、開倫塾である調査をしました。中学 3 年生の皆さんに「あなたは大学に行きたいですか」と質問したところ、「行きたい」と答えた方は 7 割ぐらい、あとの 3 割ぐらいの方は「よくわからない」という答えでした。上海で同じ調査をすると、ほとんどの方は大学に行きたいと答えます。
- (11) また、開倫塾の中学 3 年生の皆さんに「大学院まで行きたいですか」と尋ねたところ、98%の方が「わからない」と答え、「行きたい」と答えた人はわずか 1 ~ 2%でした。

(12) このように、上海の方と日本の方とでは子どもの育て方が随分と違うのです。放送をお聴きの皆さんもおそらく、お子さんやお孫さんたちに「大学に行ったほうがいいよ」とは言っても、「大学院まで行きなさい」とか「博士課程まで進みなさい」と言われる方は少ないのではないのでしょうか。ところが、上海では子どもが小さい頃から「大学まで行きなさい」「大学院まで行きなさい」「できれば博士課程まで取りなさい」と言い続け、特に子どもが高校生になるとどの親も強く言うのだそうです。

(13) 中国では、儒教の思想が強く、親から言われたことを一所懸命に叶えるのは子どもの義務だという考えがありますから、「親がそう言うのなら、勉強しなくては」ということで、子どもたちは勉強に励むのだそうです。

(14) 私はこれらのお話を聞き、親の意識が子どもの学力を決めるのだと強く思いました。これがよいことか悪いことかはわかりませんが、上海の子どもたちは本当によく勉強しています。中学生でも夜中の 1 時、2 時まで勉強するのは普通です。高校生は夜中の 2 時、3 時まで勉強しています。ですから、PISA 調査で世界 1 位の学力になるのは当然のことであると思います。問題点もたくさんあるようですが、とにかく上海の子どもたちはよく勉強しています。

3. おわりに

先週 3 日間ほど上海に行かせていただきましたので、今日は「上海の子どもたちはなぜ勉強するのか」ということについてお話をいたしました。

皆さんもぜひお考えいただければと思います。

2012 年 8 月 18 日加筆訂正 林 明夫